

なった。その過程では、我が国に未だペルシア語文献のまとまった目録がないため、今後、他機関で作成される時の一つの標準的なものとなることも想定し、記述項目、正確さ等について参考資料による検証には相当の労力を要した作業であった。その結果、本文：155頁、索引：54頁、計209頁におよぶ目録が完成した。関係者一同、慶びひとしおである。参考のために分類項目と点数を記しておく。

1. 全般・一般参考図書	113点
2. 歴史	262
3. 伝記と物語	59

4. 地理・旅行記	51
5. 美術・考古学	31
6. 文学・言語学	405
7. 哲学・神学	134
8. 社会学	9
9. 純粋科学と実用科学	56
10. 新聞・雑誌	20

西南アジア史学講座の皆さま方に深く感謝する。

(注) このコレクションは、附属図書館に配置している。

明治初年の貸出規則について

「神陵史」によれば、「ここにいたるまでの経緯からいえば、三高と京都帝国大学とは幹を同じくした二本の分校と……」述べられているように舎密局に始まって再三改名されながら第三高等学校となった歴史は、京都大学の歴史であるとも言える。従って京大の図書館史を考える場合、舎密局のそれまで遡る必要があると思われる。

近代的な図書館の源流として、「書籍館」或は「書籍縦覧所」が誕生するのであるが、明治7年12月に大坂英語学校と名を変えて間もない明治9年に、ここでも「書籍縦覧所」が大阪城の西隣りで加藤清正の旧邸があったといわれている屋敷跡の「遠侍」というところに設置されている。「遠侍」というのは、「内侍」（主殿に近い場所に居る侍）に対して、門のそばにあって「門番所」の向かいにつめていた侍・場所のことである。

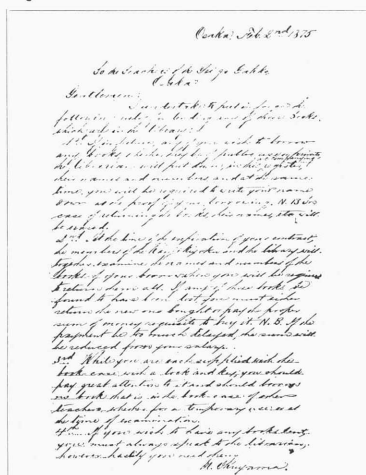
それよりも少し前の明治8年2月に、大坂英語学校の書籍掛が学校長に対して次のような伺書を提出して決裁を得ている。

教師公私用共書籍拝借之規則不相立右様不取締ニテハ終ニ紛失之憂ヲ引候起哉モ難斗、就而ハ以来別紙之規則相立出納致度、此段相伺候也

明治八年第二月二日

明治2年5月1日に教頭の和蘭第二等官医ク・ウ・ハラタマや御用掛田中芳男及び平田助左衛門等の多大の尽力によって舎密局が発足し、書籍掛

が書籍の購入を続けた結果、この頃には英書4,544冊、仏書1,038冊、蘭書21、和書933冊、合計6,536冊を所蔵していたが、「貸出規則」と言ったものがなかったのが、初めて4カ条からなる「書籍拝借心得」が誕生し、しかもそれが英文を主体として日本文が従となっている点、お雇い外国人が居たにせよ、明治維新後のあわただしさの中にあつて、なお格調の高さを物語っていると言えないだろうか。そしてそこには現在各大学図書館に設けられている貸出規則の源流を見、かつ当時の出納事務の様子をうかがうことができるようでもある。京大における最初の「閲覧規則」であると思われるので今両文を紹介して図書館史のひとつまとしてたい。



書籍拝借心得

一、教授用本タリトモ爾来此簿（借用簿のこと・筆者注）へ表題番号等相認書籍相渡シ候条其都度拝借ノ証トシテ自分姓名可相認事

但返納ノ節ハ其表題等消却可致事

一、満期雇止ノ節ハ監事并書籍掛ト立合表題等照準シ夫々可引渡尤其節紛失致居候ハ、書籍或ハ代価ヲ以テ償却可致事

但遅延ニ及候ハ、月給内ヨリ其代価差引候

事

一、錠前付ノ本箱鍵共相渡シ置候上ハ嚴重取締可致ハ勿論試験及一時入用ノ為他ノ教師拝借ノ書籍借用致間敷事

一、緩急ヲ論ゼズ書籍入用ノ節ハ其都度書籍掛ヘ可申出事

西洋一千八百七十五年 校長

我明治八年乙亥第二月 奥山政敬

（教養部 古原雅夫）

—— 図書室めぐり ——

理 学 部 中 央 図 書 室

図書資料の集中化は是か非か。

理学部の今後の図書業務を方向づける「中央図書室構想」が具体的にスタートしたのが、中央事務室に図書掛が新設された昭和54年4月のことであった。

それ以前にも、北部キャンパスでの図書館統合の計画—いわゆる北部図書館構想がいろいろの場で議論されてきた。しかし、昭和53—54年ごろより理学部独自でその方向を見出すべく、理学部図書委員会を中心に議論が進んできた。

54年度には8回、55年度には9回の図書委員会を開き、その大半の時間を中央図書室計画に割いてきた。その間、昭和55年4月17日の理学部協議会において図書委員会報告を提案し、大筋の了承を得た。

その骨子は：

1. 中央図書室と教室・附属施設図書室との関係
2. 中央図書室の機能
 - 1) 学生用図書資料の整備
 - 2) 学術文献資料—特に二次資料の整備
 - 3) 貴重書等の保管管理
 - 4) 学術情報システムへの対応—情報センター構想の推進
3. 中央図書室の管理・運営
4. 中央図書室の予算



5. 中央図書室と学部図書委員会との関係等について触れている。

これを具体化するため、当面、総面積782㎡を理学部1号館に確保して整備を進めることになった。

その第一次整備計画として、昭和55年度には、このうち232㎡（閲覧席24席、開架書架、事務室、複写室、保存書庫を含む）の整備新設を計った。

又、資料としては、自然系外国雑誌25タイトル及び学生用図書（第1次）を55年度分より配置した。その他、各教室・附属施設受入・所蔵の学生向図書の一部の拠出を仰ぎ、これらの資料を中心